

# 実習前評価システムに関する一つの考察Ⅵ

杉 本 大 輔・上 原 正 希

星槎道都大学研究紀要

社会福祉学部

第 3 号

2022 年

## 実習前評価システムに関する一つの考察Ⅵ

杉本大輔・上原正希

### 要約

本学が毎年実施している実習前評価システムの2021年度の実施報告と、その結果分析、及び、分析から考察される教育課題の提示と、教育方法の考察をおこなう。

本稿では、本学が所属している一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟北海道ブロック加盟校が実施している、実習前評価システム OSCE の、2021 年度における本学の実施報告と、その分析、及びそこから導き出された本学 2 年時のソーシャルワーク教育の課題の考察を行う。2021 年度も、昨年度同様、新型コロナウイルス (COVID-19) 感染拡大の影響により、変則的な講義構成を余儀なくされ<sup>1</sup>、当該評価システムに関連する科目 (相談援助実習指導Ⅰ、相談援助演習Ⅰ) においても、通常とは異なる講義内容となった。したがって、本年度も昨年度同様に学生たちへの教育的フォローが不完全なままでの実施となるのではないかという不安感を払しょくできないままでの実施となったが、新型コロナウイルス禍という未曾有の災害下で実施された 2 年間の内容を分析することにより、より明確な教育課題を浮き彫りにできたのではないか、というささやかな確証もあった。また、非常事態下で実施された教育内容の分析を通して、今年度より実施された新カリキュラムを進めるにあたり、検討すべき教育課題が抽出されたと考えている。

### 1, 2021 年度星槎道都大学社会福祉学部実習前評価システム (OSCE) 実施要領

7 月 26 日に 2 年時開講科目「相談援助実習指導Ⅰ」において、本年度の実習評価システムの実施を告知。実施日時は本年度夏季集中講義「地域共生プログラムⅡ」が開講される 9 月 12, 13 日。12 日の 3, 4 講に DVD『面接への招待—核心を外さない相談援助面接の技法—』(監修: 奥川幸子 渡辺律子 中央法規 2007 年) を用いた、面接技法の復習を行う。昨年度同様、変則的な講義形態によって面接技法の学習に個人差が出ているか、を考慮し、面接技法の重点ポイントに関しては杉本が解説を行う。13 日は、1, 2, 3, 4 講全ての時間を使って OSCE を実施。上原正希教授がクライアントに徹し、「地域包括支援センターにおけるインターク面接」という場面を設定し、ロールプレイを行う。所要時間は 5 分間。上原教授がクライアント評価を、杉本が評価者表を、それぞれ記入する。なお、評価項目は、7 月 26 日の講義中に学生に配布・説明。対象学生は本学社会福祉学科 2 年生 42 名。

評価者評価（5段階）						
1, クライアントを迎え入れる態度	言葉	5	4	3	2	1
	動作	5	4	3	2	1
2, 椅子の勧め方	言葉	5	4	3	2	1
	仕種	5	4	3	2	1
	どちらが先に座るか	5	4	3	2	1
3, 対面のとり方（座る位置）		5	4	3	2	1
4, 初めのあいさつ	言葉	5	4	3	2	1
5, 自己紹介	所属	5	4	3	2	1
	職名	5	4	3	2	1
	役割	5	4	3	2	1
6, 臨沂的配慮	守秘義務の伝達	5	4	3	2	1
	メモを取ることに断り	5	4	3	2	1
7, 主訴の聞き取り	切り出し方	5	4	3	2	1
8, 質問技法の的確さ（閉ざされた質問・開かれた質問）		5	4	3	2	1
9, 身体技法	傾聴の姿勢	5	4	3	2	1
	うなずき	5	4	3	2	1
	手や足を組んでいないか	5	4	3	2	1
10, 視線	相手の目を見ているか	5	4	3	2	1
	きょろきょろしていないか	5	4	3	2	1
	相手の動きを追っているか	5	4	3	2	1
11, 声音の様子	明確さ	5	4	3	2	1
	速さ	5	4	3	2	1
	抑揚	5	4	3	2	1
12, 主訴の要約は的確であったか		5	4	3	2	1
クライアント評価（5段階）						
1, クライアントは気持ちよく迎えられたか		5	4	3	2	1
2, クライアントはワーカーの役割をよく整理できたか		5	4	3	2	1
3, クライアントは滑らかに相談関係に入れたか		5	4	3	2	1
4, クライアントは相談事を十分に聞かれたと感じたか		5	4	3	2	1
5, クライアントは相談事を十分に話したと感じられたか		5	4	3	2	1
6, クライアントは相談事を十分に理解されたと感じたか		5	4	3	2	1
得点の評価内容						
5…非常によくできている						
4…よくできている						
3…できている						
2…あまりできていない						
1…全くできていない						

## 2, 評価結果

### 評価者評価

記述統計量

	度数	範囲	最小値	最大値	平均値	標準偏差	分散
迎え入れる態度 言葉	42	4.00	1.00	5.00	4.1905	1.43541	2.060
迎え入れる態度 動作	42	4.00	1.00	5.00	4.1429	1.44106	2.077
椅子の勧め方 言葉	42	4.00	1.00	5.00	3.9286	1.45490	2.117
椅子の勧め方 仕種	42	4.00	1.00	5.00	3.8095	1.46900	2.158
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	42	4.00	1.00	5.00	4.0714	1.48805	2.214
対面位置のとり方	42	4.00	1.00	5.00	3.4762	1.81105	3.280
初めのあいさつ 言葉	42	3.00	2.00	5.00	4.3810	.85404	.729
自己紹介 所属	42	4.00	1.00	5.00	2.8333	1.72382	2.972
自己紹介 職名	42	4.00	1.00	5.00	3.0952	1.63513	2.674
自己紹介 役割	42	4.00	1.00	5.00	1.8333	1.36000	1.850
倫理的配慮 守秘義務の伝達	42	4.00	1.00	5.00	3.8810	1.56490	2.449
倫理的配慮 メモを取ることの断り	42	4.00	1.00	5.00	3.0476	1.92484	3.705
主訴の聞き取り 切り出し方	42	3.00	2.00	5.00	3.4048	.73450	.539
質問の方法的確かさ	42	3.00	2.00	5.00	2.8333	.79378	.630
身体技法 傾聴の姿勢	42	2.00	3.00	5.00	4.8810	.45276	.205
身体技法 うなずき	42	2.00	3.00	5.00	4.8333	.48973	.240
身体技法 手や足を組んでいないか	42	.00	5.00	5.00	5.0000	.00000	.000
視線 相手の目を見ているか	42	3.00	2.00	5.00	4.8571	.52132	.272
視線 きよろきよろしていないか	42	.00	5.00	5.00	5.0000	.00000	.000
視線 相手の動きを追っているか	42	1.00	4.00	5.00	4.9286	.26066	.068
声音の様子 明確さ	42	3.00	2.00	5.00	3.5238	1.21451	1.475
声音の様子 速さ	42	3.00	2.00	5.00	3.6905	1.15796	1.341
声音の様子 抑揚	42	3.00	2.00	5.00	3.4048	1.19060	1.418
主訴の要約は的確であったか	42	2.00	1.00	3.00	1.9524	.66083	.437
有効なケースの数 (リストごと)	42						

平均値の比較を見ると、昨年同様、「身体技法 手や足を組んでいないか」「視線 きよろきよろしていないか」は平均値 5.0000、つまり全員が評価 5 ということである。また、昨年平均値 5.0000 であった「視線 相手の動きを追っているか」は、平均値 4.9286 と、全員評価 5 ではないが、高得点を出している。コロナ禍での実施という条件は昨年と同じであるから、上記 3 つの項目に関しては、「習得が容易な項目」とみてよいと考える。今年度、平均値 4.0000 を上回った項目は「迎え入れる態度 言葉」「迎え入れる態度 動作」「椅子の勧め方 どちらが先に座るか」「初めのあいさつ 言葉」「身体技法 傾聴の姿勢」「身体技法 うなずき」「視線 相手の目を見ているか」の 7 項目、上記 3 項目を合わせて 10 項目が平均 4.0000 を上回っている。昨年度は 16 項目が 4.0000 を

上回っていることを考えると、6 項目が平均値 4.0000 下回ったことになる。下回った項目は「椅子の勧め方 言葉」「椅子の勧め方 動作」「対面位置のとり方」「倫理的配慮 メモを取ることの断り」「主訴の聞き取り 切り出し方」「声音の様子 速さ」である。特に「対面位置のとり方」は、昨年度 4.505 という平均値であったが<sup>2)</sup>、今年度は 3.4762 と、平均値で 1 ポイント以上、下回っている。また、昨年からの傾向であるが、「声音の様子 明確さ」「声音の様子 速さ」「声音の様子 抑揚」の 3 項目が例年に比べて平均値が低い<sup>3)</sup>。また、ポイントの散らばりに関しても、昨年度は最小値 1.0000 の項目が 9 項目だったのに対して、今年度は 12 項目となっており、より緻密なポイントの散らばりの分析が必要と考える<sup>4)</sup>。

利用者評価

記述統計量

	度数	範囲	最小値	最大値	平均値	標準偏差	分散
気持ちよく迎えられたか	42	4.00	1.00	5.00	3.4524	.94230	.888
ワーカーの役割をよく理解できたか	42	4.00	1.00	5.00	2.7143	.91826	.843
滑らかに相談関係に入れたか	42	3.00	2.00	5.00	3.3571	.72655	.528
相談事を十分に聞かれたと感じたか	42	3.00	2.00	5.00	3.6190	.69677	.485
相談事を十分に話したと感じたか	42	3.00	2.00	5.00	3.6667	.81650	.667
相談事を十分に理解されたと感じたか	42	3.00	2.00	5.00	3.6190	.85404	.729
有効なケースの数 (リストごと)	42						

利用者評価については、昨年度に比べて違いが見られた。まず、「ワーカーの役割をよく理解できたか」の平均値 (2.7149) が昨年度 (3.4324) に比べて、低くなっている。また、分散、標準偏差共に昨年度と比べて全体的に昨年よりも低く、点数のバラツキが小さいことがわかる<sup>5)</sup>。

3, 因子分析

今年度の因子分析では、散らばりの小さい「身体技法 傾聴の姿勢」「身体技法 うなずき」「身体技法 手や足を組んでいないか」「視線 相手の目を見ているか」「視線 きよろきよろしていないか」「視線 相手の動きを追っていないか」は分析項目から除外した。また、「声音の様子 明確さ」「声音の様子 速さ」「声音の様子 抑揚」は、各項目との関連が見出されなかったので分析から外した。なお、分析方法は最尤法を採用した。

共通性<sup>a)</sup>

	初期	因子抽出後
迎え入れる態度 言葉	.985	.999
迎え入れる態度 動作	.991	.982
椅子の勧め方 言葉	.957	.956
椅子の勧め方 仕種	.891	.885
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	.582	.436
対面位置のとり方	.503	.209
自己紹介 所属	.493	.999
自己紹介 職名	.516	.344
自己紹介 役割	.480	.355
初めのあいさつ 言葉	.593	.368
倫理的配慮 守秘義務の伝達	.598	.481
倫理的配慮 メモを取ることに断り	.789	.999
主訴の聞き取り 切り出し方	.645	.216
質問の方法の的確さ	.625	.390
主訴の要約は的確であったか	.708	.999

因子抽出法：最尤法

a. 反復中に1つまたは複数の1よりも大きい共通性推定値がありました。得られる解の解釈は慎重に行ってください。

KMO および Bartlett の検定

Kaiser-Meyer-Olkin の標本妥当性の測度		.558
Bartlett の球面性検定	近似カイ 2 乗	466.186
	自由度	105
	有意確率	.000

説明された分散の合計

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和 <sup>a)</sup>
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %	合計
1	5.269	35.129	35.129	4.504	30.029	30.029	4.738
2	2.317	15.449	50.579	1.429	9.529	39.559	2.297
3	1.524	10.158	60.737	1.429	9.528	49.086	2.376
4	1.452	9.683	70.419	1.688	11.251	60.337	1.630
5	1.191	7.938	78.357	.567	3.782	64.119	.555
6	.732	4.877	83.234				
7	.618	4.120	87.355				
8	.558	3.718	91.073				
9	.414	2.758	93.831				
10	.286	1.906	95.737				
11	.258	1.718	97.455				

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和 <sup>a</sup>
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %	合計
12	.187	1.244	98.699				
13	.139	.928	99.627				
14	.051	.337	99.964				
15	.005	.036	100.000				

因子抽出法：最尤法

a. 因子が相関する場合は、負荷量平方和を加算しても総分散を得ることはできません。

因子行列<sup>a</sup>

	因子				
	1	2	3	4	5
迎え入れる態度 言葉	.786	.290	-.158	.521	-.018
迎え入れる態度 動作	.766	.256	-.164	.531	.140
椅子の勧め方 言葉	.753	.229	-.154	.419	.371
主訴の要約は的確であったか	.670	-.326	-.544	-.384	-.001
椅子の勧め方 仕種	.662	.254	-.254	.406	.392
倫理的配慮 メモを取ることの断り	.631	.475	.478	-.383	.000
質問の方法の的確さ	.478	-.084	-.221	-.314	.083
初めのあいさつ 言葉	.464	-.117	-.255	.060	.265
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	.453	.317	.074	.212	.282
自己紹介 役割	.401	.054	.390	-.155	-.121
倫理的配慮 守秘義務の伝達	.397	.039	.364	-.392	-.190
自己紹介 職名	.385	-.291	.294	.079	.135
対面位置のとり方	.354	.193	-.115	-.071	.167
自己紹介 所属	.426	-.763	.465	.138	.000
主訴の聞き取り 切り出し方	.153	-.026	.212	-.379	.053

因子抽出法：最尤法

a. 5個の因子が抽出されました。9回の反復が必要です。

適合度検定

カイ2乗	自由度	有意確率
70.136	40	.002

パターン行列<sup>a</sup>

	因子				
	1	2	3	4	5
椅子の勧め方 言葉	.967	-.064	.029	.087	.015
椅子の勧め方 仕種	.942	-.149	.065	-.002	-.005
迎え入れる態度 動作	.927	-.023	-.001	.021	.279
迎え入れる態度 言葉	.852	.070	.021	-.051	.423
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	.659	.130	-.154	.009	-.082
初めのあいさつ 言葉	.380	-.147	.342	.131	-.097
対面位置のとり方	.310	.125	.179	-.126	-.090
倫理的配慮 メモを取ることの断り	.230	.930	-.045	-.106	-.121
倫理的配慮 守秘義務の伝達	-.183	.671	.132	.080	.003
自己紹介 役割	.022	.541	-.043	.168	.040
主訴の聞き取り 切り出し方	-.172	.356	.129	.083	-.229
主訴の要約は的確であったか	-.047	.021	1.017	-.027	.027
質問の方法の的確さ	.044	.162	.561	-.030	-.096
自己紹介 所属	-.060	.059	-.003	.993	-.001
自己紹介 職名	.174	.113	-.037	.532	-.096

因子抽出法：最尤法

回転法：Kaiserの正規化を伴うプロマックス法<sup>a</sup>

a. 7回の反復で回転が収束しました。

構造行列

	因子				
	1	2	3	4	5
椅子の勧め方 言葉	.971	.192	.388	.181	.128
迎え入れる態度 動作	.949	.198	.344	.176	.369
椅子の勧め方 仕種	.929	.091	.377	.078	.087
迎え入れる態度 言葉	.910	.258	.341	.154	.486
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	.629	.270	.102	.037	-.031
対面位置のとり方	.384	.210	.274	-.049	-.090
倫理的配慮 メモを取ることの断り	.419	.963	.157	.045	-.159
倫理的配慮 守秘義務の伝達	.036	.662	.197	.220	-.011
自己紹介 役割	.159	.569	.099	.268	.064
主訴の聞き取り 切り出し方	-.051	.358	.138	.108	-.231
主訴の要約は的確であったか	.322	.170	.998	.242	.056
質問の方法的確かさ	.273	.262	.591	.125	-.082
初めのあいさつ 言葉	.470	.028	.484	.206	-.012
自己紹介 所属	.050	.225	.242	.997	.234
自己紹介 職名	.232	.250	.178	.537	.045

因子抽出法：最尤法

回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

因子相関行列

因子	1	2	3	4	5
1	1.000	.244	.358	.098	.090
2	.244	1.000	.164	.183	-.033
3	.358	.164	1.000	.259	.040
4	.098	.183	.259	1.000	.245
5	.090	-.033	.040	.245	1.000

因子抽出法：最尤法

回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

### 因子の解釈

#### 第1因子

「椅子の勧め方 言葉」「椅子の勧め方 仕種」「迎え入れる態度 動作」「迎え入れる態度 言葉」「椅子の勧め方 どちらが先に座るか」「初めのあいさつ 言葉」「対面位置のとり方」



クライアント入室時の信頼関係形成

#### 第2因子

「倫理的配慮 メモを取ることの断り」「倫理的配慮 守秘義務の伝達」「自己紹介 役割」「主訴の聞き取り 切り出し方」



面接開始時における配慮

#### 第3因子

「質問方法の的確さ」→質問方法の的確さ

#### 第4因子

「自己紹介 所属」「自己紹介 職名」



面接開始時の自己紹介の重要性

#### 第5因子

「主訴の要約は的確であったか」→主訴の要約

昨年度の実習前評価システムでは「クライアント入室時の信頼関係形成」「面接における質問時の配慮」「面接時の身体技法」「面接開始時における基本的な信頼関係の形成」「面接開始時と山場の口頭技法」「自己開示による信頼関係形成」の6つの因子が抽出されたが、本年度は「クライアント入室時の信頼関係形成」「面接開始時における配慮」「質問方法の的確さ」「面接開始時における自己紹介の重要性」「主訴の要約」の5因子が抽出された。また、身体技法全般にとの関連が見出されないことから<sup>6</sup>、昨年度とは異なり、身体技法と質問技法との乖離が顕在化したと考える。身体技法は全ての項目に関

して高得点であったが、他の質問内容との関連が確認されないのなら、身体技法、声音の様子、視線、の項目が独立して高得点を挙げたことになる。ソーシャルワークにおける構造化面接はバーバル・ノンバーバルコミュニケーションがそれぞれ関連して実施される。ゆえに、自己覚知という概念が成立すると考えるが、面接中核技法と個々の身体技法の乖離がある場合、それぞれ独立して学生が習得したことになる。これは2年時に学習する自己理解・自己覚知の理解に影響を及ぼすと考える。

#### 4, 考察

面接中核技法と身体技法の乖離の原因についての考察であるが、一つの要因として、本年度2年生が入学時より過ごした、学内環境の影響をあげたい。当該2年生は昨年度よりリモートと対面とのハイブリッドの講義を継続して受講してきた。昨年度、本学では前期(第1クォーター)が開始した4月7日-8日は通常対年式の講義が行われたが、緊急事態宣言が発令されたことを受け、4月9日から5月20日まで休講となったが、5月21日から6月12日までteamsを使ったリモート講義を行い、6月13日より通常対面講義を行い前期(第1, 第2クォーター)を終了した。9月28日より後期(第3クォーター)が開始されたが、11月より対面、リモートのハイブリッド講義が導入され、後期終了まで続けられた(対面にするか、リモートにするか、双方のハイブリッドにするかは教員に一任された)。また、本年度は4月27日から5月11日までがリモート講義、5月12日から6月9日までがリモート・対面のハイブリッド講義で行われた。すなわち、入学時から大学生としての対面生活が、他の学年に比べて著しく少ない学年といえる。また講義環境だけではなく、昨年度より学内のいたるところにソーシャルディスタンスを意識した環境整備がなされた(教室、図書館、食堂などの距離をとった座席の配置、アクリル板の設置、マスクの義務化等)。この事実が今回のOSCEの結果(身体技法と面接中核技法の解離)に何らかの影響を与えたのではないかと考えるが、これについては、2019、2020、2021年度のOSCEの結果を総合的に分析する必要があると考える。

#### 5, 終わりに—新型コロナ禍影響下での学習環境における実習指導について—

本学の本年度2年生は、来年度、現場実習に配属されるが、彼らは旧カリキュラム下における相談援助現場実習を履修する最後の学生たちである。それまで全く経験

してこなかったリモート講義、あるいはハイブリッド講義を1年入学時から強制させられてきた彼らにとって、相談援助における対人関係を通常の講義だけで終了させることに不安を感じる。昨年度の拙稿で、杉本は「今後の本学の課題は、OSCEという一連の課題の中で、身体技法と面接中核技法との関係性、あるいは連続性の理解と、その具体的学習方法の揭示である」と書いた<sup>7</sup>。今年度のOSCEでは、面接中核技法と身体技法の乖離が見られ、その関連性の理解も昨年度と比較して低くなっていると考える。この原因が、前記したような昨年度から続いた、学内外の対面場面の制限による影響であるとしたら、来年度(2022年度)の実習に臨んで、実習指導教員が、意識的に学生の身体技法を自覚させ、それらが対面場面においてどのような影響をもたらすかを、繰り返し自覚させる必要があると考える。クライアントと実習生の対面場面は構造化・非構造化の場面において実習現場では多岐にわたる。身体技法と面接技法の関係を理解させたうえで、学生各々に繰り返し、振り返りを行わせる必要があると考える<sup>8</sup>。

#### 註記)

- 1, 本学の本年度の講義開始は4月6日であり、その後、4月26日まで通常対面形式の講義を進めていたが、新型コロナウイルスの蔓延拡大に伴い4月27日から5月11日までteamsを用いたリモート講義に移行した。その後、5月12日より、リモート・対面のハイブリッド講義に移行、6月10日から全ての講義を対面形式に戻した。当該評価システムに関わる相談援助実習指Iと相談援助演習Iは、4月27日から6月9日までの期間、全てリモートで講義が行われた。
- 2, 杉本 上原「実習前評価システムに関する一つの考察V」星槎道都大学研究紀要第2号P84
- 3, 「対面位置のとり方」「声音の様子 明確さ」「声音の様子 速さ」「声音の様子 抑揚」の4項目が例年よりも、さらに言えば昨年よりも低い平均値になったのは、新型コロナ禍における影響が何らかの形で出たものと考え。他人との距離感、会話のテンポなどに関して、学生生活・日常生活の中の何らかの要因がOSCEという場を通して、顕在化したものと考え。
- 4, これに関しては昨年同様、探索的分析の結果を掲載するにとどめるが、今年度、昨年度と、新型コロナ禍における学習課題の提示ということで、分析を進めている。



処理したケースの要約

	ケース					
	有効数		欠損値		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
迎え入れる態度 言葉	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
迎え入れる態度 動作	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
椅子の勧め方 言葉	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
椅子の勧め方 仕種	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
対面位置のとり方	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
初めのあいさつ 言葉	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
自己紹介 所属	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
自己紹介 職名	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
自己紹介 役割	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
倫理的配慮 守秘義務の伝達	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
倫理的配慮 メモを取ることの断り	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
主訴の聞き取り 切り出し方	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
質問の方法的確かさ	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
身体技法 傾聴の姿勢	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
身体技法 うなずき	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
身体技法 手や足を組んでいないか	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
視線 相手の目を見ているか	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
視線 きょろきょろしていないか	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
視線 相手の動きを追っているか	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
声音の様子 明確さ	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
声音の様子 速さ	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
声音の様子 抑揚	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
主訴の要約は的確であったか	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%

記述統計<sup>a, b</sup>

		統計量	標準誤差	
迎え入れる態度 言葉	平均値	4.1905	.22149	
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.7432	
		上限	4.6378	
	5%トリム平均	4.3228		
	中央値	5.0000		
	分散	2.060		
	標準偏差	1.43541		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	1.25		
	歪度	-1.494	.365	
	尖度	.645	.717	
	迎え入れる態度 動作	平均値	4.1429	.22236
平均値の 95% 信頼区間		下限	3.6938	
		上限	4.5919	
5%トリム平均		4.2698		
中央値		5.0000		
分散		2.077		
標準偏差		1.44106		

		統計量	標準誤差
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	2.00	
	歪度	-1.392	.365
	尖度	.385	.717
	椅子の勧め方 言葉	平均値	3.9286
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.4752
		上限	4.3819
	5%トリム平均	4.0317	
	中央値	5.0000	
	分散	2.117	
	標準偏差	1.45490	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	2.00	
	歪度	-1.068	.365
	尖度	-.361	.717
	椅子の勧め方 仕種	平均値	3.8095
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.3518
		上限	4.2673
	5%トリム平均	3.8995	
	中央値	4.5000	
	分散	2.158	
	標準偏差	1.46900	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	2.25	
	歪度	-.866	.365
	尖度	-.752	.717
	椅子の勧め方 どちらが先に座るか	平均値	4.0714
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.6077
		上限	4.5351
	5%トリム平均	4.1905	
	中央値	5.0000	
	分散	2.214	
	標準偏差	1.48805	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	2.25	
	歪度	-1.154	.365
	尖度	-.407	.717
	対面位置のとり方	平均値	3.4762
	平均値の 95% 信頼区間	下限	2.9118
		上限	4.0406
	5%トリム平均	3.5291	
	中央値	5.0000	
	分散	3.280	

		統計量	標準誤差
	標準偏差	1.81105	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	4.00	
	歪度	-.477	.365
	尖度	-1.685	.717
初めのあいさつ 言葉	平均値	4.3810	.13178
	平均値の 95% 信頼区間	下限	4.1148
		上限	4.6471
	5%トリム平均	4.4497	
	中央値	5.0000	
	分散	.729	
	標準偏差	.85404	
	最小値	2.00	
	最大値	5.00	
	範囲	3.00	
	4分位範囲	1.00	
	歪度	-1.089	.365
	尖度	.029	.717
自己紹介 所属	平均値	2.8333	.26599
	平均値の 95% 信頼区間	下限	2.2962
		上限	3.3705
	5%トリム平均	2.8148	
	中央値	3.0000	
	分散	2.972	
	標準偏差	1.72382	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	4.00	
	歪度	.181	.365
	尖度	-1.715	.717
自己紹介 職名	平均値	3.0952	.25231
	平均値の 95% 信頼区間	下限	2.5857
		上限	3.6048
	5%トリム平均	3.1058	
	中央値	3.0000	
	分散	2.674	
	標準偏差	1.63513	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	4.00	
	歪度	-.055	.365
	尖度	-1.623	.717
自己紹介 役割	平均値	1.8333	.20985
	平均値の 95% 信頼区間	下限	1.4095
		上限	2.2571
	5%トリム平均	1.7037	
	中央値	1.0000	

		統計量	標準誤差	
	分散	1.850		
	標準偏差	1.36000		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	1.477	.365	
	尖度	.771	.717	
倫理的配慮 守秘義務の伝達	平均値	3.8810	.24147	
	平均値の 95% 信頼区間	下限 4.3686		
	5%トリム平均	3.9788		
	中央値	5.0000		
	分散	2.449		
	標準偏差	1.56490		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	2.00		
	歪度	-1.076	.365	
	尖度	-.447	.717	
	倫理的配慮 メモを取ることの断り	平均値	3.0476	.29701
		平均値の 95% 信頼区間	下限 3.6474	
	5%トリム平均	3.0529		
	中央値	3.5000		
	分散	3.705		
	標準偏差	1.92484		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	4.00		
	歪度	-.049	.365	
	尖度	-2.006	.717	
	主訴の聞き取り 切り出し方	平均値	3.4048	.11334
		平均値の95%信頼区間	下限 3.6336	
	5%トリム平均	3.3968		
	中央値	3.0000		
	分散	.539		
	標準偏差	.73450		
	最小値	2.00		
	最大値	5.00		
	範囲	3.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	-.042	.365	
	尖度	-.208	.717	
	質問の方法の的確さ	平均値	2.8333	.12248
		平均値の 95% 信頼区間	下限 3.0807	
	5%トリム平均	2.7884		

		統計量	標準誤差	
	中央値	3.0000		
	分散	.630		
	標準偏差	.79378		
	最小値	2.00		
	最大値	5.00		
	範囲	3.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	.620	.365	
	尖度	-.193	.717	
	身体技法 傾聴の姿勢	平均値	4.8810	.06986
平均値の 95% 信頼区間		下限	4.7399	
		上限	5.0220	
5%トリム平均		4.9762		
中央値		5.0000		
分散		.205		
標準偏差		.45276		
最小値		3.00		
最大値		5.00		
範囲		2.00		
4分位範囲		.00		
歪度		-3.843	.365	
尖度		13.999	.717	
身体技法 うなずき		平均値	4.8333	.07557
	平均値の 95% 信頼区間	下限	4.6807	
		上限	4.9859	
	5%トリム平均	4.9233		
	中央値	5.0000		
	分散	.240		
	標準偏差	.48973		
	最小値	3.00		
	最大値	5.00		
	範囲	2.00		
	4分位範囲	.00		
	歪度	-3.028	.365	
	尖度	8.583	.717	
	視線 相手の目を見ているか	平均値	4.8571	.08044
平均値の 95% 信頼区間		下限	4.6947	
		上限	5.0196	
5%トリム平均		4.9497		
中央値		5.0000		
分散		.272		
標準偏差		.52132		
最小値		2.00		
最大値		5.00		
範囲		3.00		
4分位範囲		.00		
歪度		-4.537	.365	
尖度		22.867	.717	
視線 相手の動きを追っているか		平均値	4.9286	.04022
	平均値の 95% 信頼区間	下限	4.8473	
		上限	5.0098	

		統計量	標準誤差
	5%トリム平均	4.9762	
	中央値	5.0000	
	分散	.068	
	標準偏差	.26066	
	最小値	4.00	
	最大値	5.00	
	範囲	1.00	
	4分位範囲	.00	
	歪度	-3.453	.365
	尖度	10.416	.717
	声音の様子 明確さ	平均値	3.5238
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.1453
		上限	3.9023
	5%トリム平均	3.5265	
	中央値	3.5000	
	分散	1.475	
	標準偏差	1.21451	
	最小値	2.00	
	最大値	5.00	
	範囲	3.00	
	4分位範囲	3.00	
	歪度	-.015	.365
	尖度	-1.578	.717
	声音の様子 速さ	平均値	3.6905
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.3296
		上限	4.0513
	5%トリム平均	3.7116	
	中央値	4.0000	
	分散	1.341	
	標準偏差	1.15796	
	最小値	2.00	
	最大値	5.00	
	範囲	3.00	
	4分位範囲	2.25	
	歪度	-.342	.365
	尖度	-1.327	.717
	声音の様子 抑揚	平均値	3.4048
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.0337
		上限	3.7758
	5%トリム平均	3.3942	
	中央値	3.0000	
	分散	1.418	
	標準偏差	1.19060	
	最小値	2.00	
	最大値	5.00	
	範囲	3.00	
	4分位範囲	3.00	
	歪度	.146	.365
	尖度	-1.502	.717
	主訴の要約は的確であったか	平均値	1.9524

			統計量	標準誤差
	平均値の 95% 信頼区間	下限	1.7465	
		上限	2.1583	
5%トリム平均			1.9471	
中央値			2.0000	
分散			.437	
標準偏差			.66083	
最小値			1.00	
最大値			3.00	
範囲			2.00	
4分位範囲			.25	
歪度			.050	.365
尖度			-.588	.717

- a. 身体技法 手や足を組んでいないか は定数です。よって省略されています。  
b. 視線 きよろきよろしていないか は定数です。よって省略されています。

5. これについても、本年度の探索的分析の結果を掲示する。

処理したケースの要約

	ケース					
	有効数		欠損値		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
気持ちよく迎えられたか	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
ワーカーの役割をよく理解できたか	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
滑らかに相談関係に入れたか	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
相談事を十分に聞かれたと感じたか	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
相談事を十分に話したと感じたか	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%
相談事を十分に理解されたと感じたか	42	100.0%	0	0.0%	42	100.0%

記述統計

			統計量	標準誤差
気持ちよく迎えられたか	平均値		3.4524	.14540
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.1587	
		上限	3.7460	
5%トリム平均			3.4735	
中央値			3.5000	
分散			.888	
標準偏差			.94230	
最小値			1.00	
最大値			5.00	
範囲			4.00	
4分位範囲			1.00	
歪度			-.315	.365
尖度			-.039	.717
ワーカーの役割をよく理解できたか	平均値		2.7143	.14169
	平均値の 95% 信頼区間	下限	2.4281	
		上限	3.0004	
5%トリム平均			2.6534	
中央値			3.0000	
分散			.843	

		統計量	標準誤差
	標準偏差	.91826	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	1.00	
	歪度	1.013	.365
	尖度	.889	.717
滑らかに相談関係に入れたか	平均値	3.3571	.11211
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.1307
		上限	3.5836
	5%トリム平均	3.3439	
	中央値	3.0000	
	分散	.528	
	標準偏差	.72655	
	最小値	2.00	
	最大値	5.00	
	範囲	3.00	
	4分位範囲	1.00	
	歪度	.127	.365
	尖度	-.087	.717
相談事を十分に聞かれたと感じたか	平均値	3.6190	.10751
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.4019
		上限	3.8362
	5%トリム平均	3.6349	
	中央値	4.0000	
	分散	.485	
	標準偏差	.69677	
	最小値	2.00	
	最大値	5.00	
	範囲	3.00	
	4分位範囲	1.00	
	歪度	-.676	.365
	尖度	.382	.717
相談事を十分に話したと感じたか	平均値	3.6667	.12599
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.4122
		上限	3.9211
	5%トリム平均	3.6852	
	中央値	4.0000	
	分散	.667	
	標準偏差	.81650	
	最小値	2.00	
	最大値	5.00	
	範囲	3.00	
	4分位範囲	1.00	
	歪度	-.429	.365
	尖度	-.113	.717
相談事を十分に理解されたと感じたか	平均値	3.6190	.13178
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.3529
		上限	3.8852
	5%トリム平均	3.6323	
	中央値	4.0000	



	統計量	標準誤差
分散	.729	
標準偏差	.85404	
最小値	2.00	
最大値	5.00	
範囲	3.00	
4分位範囲	1.00	
歪度	-.391	.365
尖度	-.335	.717

6, 本稿では最尤法を用いた分析を提示したが, 主因子法を使った分析も行ったが, 身体技法全体との関連はやはり見いだされなかった。

7, 杉本・上原「前掲論文」P90

8, 2019, 2020, 2021年度のOSCEの比較分析について

は別稿に譲るが, 前記した杉戸の仮説, すなわち, 学生の日常生活の変化が面接技法の習得に何らかの影響を及ぼしているとしたら, 今回の新型コロナ禍が学習環境に与えた具体的影響についての一つの示唆を与えることになると思う。

# One Study Considered with the Estimational System for Social Work Practice VI

SUGIMOTO Daisuke      UEHARA Masaki

## Abstract

In this paper, we report the implementation report of the pre-training evaluation system implemented by the university in 2021 and the analysis results. Then, we will consider the educational issues of our university derived from the results.

